

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2375700891
法人名	医療法人 大岩医院
事業所名	グループホーム ヒラソルとよはま
訪問調査日	平成 20 年 10 月 7 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2375700891
法人名	医療法人 大岩医院
事業所名	グループホーム ヒラソルとよはま
所在地	愛知県知多郡南知多町大字豊浜字上大田面12-1 (電話)0569-65-3331

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣N203		
訪問調査日	平成20年10月7日	評価確定日	平成20年10月24日

【情報提供票より】(20年9月29日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 14日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人	
職員数	11 人	常勤 10 人,	非常勤 0 人,	常勤換算 4

(2)建物概要

建物構造	重量鉄骨造り
	平屋建て 1階 ~ 部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	120 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(9月29日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大岩医院 知多厚生病院 竹内歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ヒラソルとよはま」は、知多半島の先端、豊浜漁港からの磯の香が漂う住宅街にあり、医療法人が運営している。「ヒラソル」の名は、ギリシャ神話に登場する「ひまわり」の精に因み、ひまわりの花のごとく「大きく、明るく、いつまでも」との思いや「温かい心と安らぎ」への願いが込められている。また、ホームは、同じ敷地内にある医院、デイサービスと共に、地域医療と介護サービスの一体的なニーズに応え、地域や住民の信頼を得ている。清楚で温かみを感じられる外観をはじめ、中庭に面した居間兼食堂は採光と通風に優れ、明るく、快適なくつろぎのスペースとなっている。壁の装飾や掲示物は、手作り作品であったり、行事や「社会見学」の思い出の写真であったり、楽しみの多いホームの暮らしぶりが感じられる。居室は、たっぷり日光が入り、整理整頓も行き届いていて、清潔と安心の感が窺える。職員の「笑顔と機転」が、利用者の日々のふるまいを「にこやかさ、優しさ、穏やかさ」に包み込んでいるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部)</p> <p>前回の外部評価では、「理念や方針」を目に付くところに表示するなどの対応、また、介護計画の説明や同意の際には、家族の確認の記録(押印や署名など)を残すことが求められた。今回の評価では、理念の書面掲示が、玄関ホールや食堂でわかりやすく明示されていた。また、介護計画として、「生活援助計画書」が整備され、家族等の押印や署名が認められた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回、自己評価について、事前に全職員で話し合い、自己評価の意義や目的を理解してきた。自己評価票の取りまとめは施設長、リーダーが主導したが、現在も、職員全員がホームとサービスの質を「より良くしていこう!」とさまざまな取り組みをしている。(たとえば、業務の分担や権限委譲の明確化)</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部)</p> <p>運営推進会議は、2~3か月毎に開催されている。利用者と家族等が全員参加することを原則にしている。地域の代表(家庭推進協議会委員、民生委員、駐在所のおまわりさん)と行政の担当(町の保険介護課職員、地域包括支援センター担当者)も定期的に出席している。会議は毎回、新たなテーマを設定して、ホームの状況、利用者の様子、今後の行事予定や直面している課題などを説明し、意見を聞いている。会議録も丁寧に作成され、会議の内容はサービスの質向上やホーム運営に活かされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>定期的に家族会を開催したり、毎月、家族等に面会の訪問を求め、利用者の状態や日々の様子、利用料明細などの説明をすると共に、家族等の意見、要望、苦情を聞いている。「意見箱」の設置はしていないが、家族等とは必要なコミュニケーションを図るように努めている。施設長や職員は、家族の面会時には丁寧に接して、話しやすい雰囲気づくりに努めている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは町内会に加入し、職員は、地域行事などに利用者と共に、可能な限り参加をしている。晴れた日には、駐車場の一角を広場にして、体操や散歩などを行っているので、併設の医院に通院する人やデイサービスの利用者とも、日常的に挨拶や声かけができ、地域の人たちと「おなじみさん」の関係が築かれている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域医療活動の中で、医院に併設されたグループホームであるだけに、住民との交流が図れている。家族の立場になって終身まで支える理念をケアの方針としている。掲げられている理念は、「地域の中で、住民交流が図れ、アットホームな雰囲気、共同生活ができるよう、終身まで支えていく。」である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	独自の理念は、「ケアの原則」3項目とともに、玄関ホールの壁と居間の壁に掲示されているので、訪問者と職員は、いつでも確認が出来る。ケアの原則(方針)は、「①ゆっくりと楽しく ②自由にありのまま ③いつも同じ馴染みの環境」である。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として町内会に加入し、町の文化展、近隣の小学校の運動会、特別養護老人ホームの催事などに招待され、できるだけ、参加と交流をしている。また、ホーム主催の夏祭りには、近隣住民、併設医院の患者と家族、隣接デイサービスの利用者などが参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の結果は、職員会議、日々の申し送り時に取り上げ、意見交換をしたり、改善や質の向上に繋げるように取り組んでいる。	○	今後、自己評価票へ記入した内容を改めて、全職員で話し合い、共有する取り組みが展開されるよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に、2~3か月に一回の割で行われており、ほとんどの利用者とその家族等、地域包括支援センターの担当者、町役場の保険介護課職員、民生委員、地元の警察駐在所員、老人会役員などが出席し、議題も多岐にわたっている。議事録も詳細に記入され、大変熱心に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外には、町の担当者との行き来はやや希薄であるが、隣接のデイサービスに出入りする地域包括支援センター担当者との関わりは密である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等には、月に一回、請求書を手渡す名目でホームに来てもらい、利用者の様子を説明し、家族等の要望などを話し合っている。また、ホームが発行する「ヒラソル便り」やスナップ写真集の「行事報告」が、玄関、廊下、居間に展示してある。また、玄関では、日常生活の写真集を自由に見ることが出来る。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が、運営推進会議や面会にホームを訪れ、意見を述べる機会が多い。意見箱の設置はしていないが、施設長や職員が意見、要望を聴衆する体制が出来ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来、職員の異動は少なく、結婚・産休で一人、依願退職で一人であり、職員の定着率が非常に高い。利用者や職員との馴染みの関係維持が重要と考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームは、積極的に外部研修などを受ける機会を確保するようにしている。職員には研修を案内し、勤務シフトも考慮し、研修参加を支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの連絡会、交流会は行っていないが、「グループホーム連絡協議会知多ブロック」に参加し、研修や情報交換などの交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設医院の通院患者、隣接デイサービスの利用者がホームに入居されることも多く、ホームの雰囲気に多少の馴染みがある。ホーム見学は随時行われているが、体験入居のケースはない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒にラジオ体操をしたり、般若心経を唱えたり、近隣の観光施設に外出するなど支援の場においても、家族の一員、人生の先輩という気持ちで接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の個々の思いや希望は、日々の関わりの中で、声かけなどにより把握をしている。意思疎通が困難な利用者は、家族からも情報を得るようにしている。職員は、これら情報を記録に残し、共有し、日常の支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	施設長、職員は利用者、家族等の要望や意見を聞き、これを日々の生活記録、連絡ノートに記録している。カンファレンスで意見交換し、利用者個々に必要なケアを検討して、介護計画の作成や見直しを行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的または状態の変化に応じて見直しを行っている。見直しには、利用者、家族等、職員の意見を取り入れ、現状に即した見直し計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者は、隣接のデイサービスでの行事に参加し、交流を深めている。また、運営母体である医院での受診や投薬など、医療連携が支援の強みになっている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医院や近隣の眼科と受診の連携体制が出来ている。また、利用者、家族等の希望があれば、他科受診や通院支援も行われる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開所以来、利用者数人の看取りを経験している。重症化に備えて、家族等と「事前指定書」(終末期の意向確認)を文書で取り交わし、併設医院と連携を取っている。職員間では、看護師とケア体制を組み、終末期に向けた対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員も全員が近隣在住のため、利用者のプライバシーの尊重と保護、個人情報の秘密厳守を徹底している。個人情報に関する書類の取扱い、保管も慎重に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼間は職員4人の体制であり、手厚い介護が行われている。食事、入浴時間もその日の利用者の体調や状況に配慮し、要望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	足腰が弱って、車椅子の利用者、食事の介助を必要とする利用者もいる。意欲のある利用者には、調理の下準備の手伝い、食後の下膳やトレイ拭きなどを手伝ってもらっている。利用者の誕生会には、ケーキを用意、全員でお祝いをしている。	○	ホームの方針として、職員は食事介助に集中するため、利用者と一緒に食事を摂ることを差し控えている。勤務体制に係る事情もあるが、時には利用者と食事を共にして、その場を盛り上げることも必要であると思われ、そのような機会を期待したい。
23		○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆっくり入浴してもらうため個浴である。原則、一日おきに午後の入浴であるが、希望があれば、柔軟に対応している。浴室は広く、予熱暖房器が設置され、ゆったりと快適である。脱衣場も広く、介助しやすい環境である。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事の好きな利用者には、草取りや野菜作りを、動ける人には、洗濯干しやたたみごとの役割してもらっている。居間には、利用者の習字作品が貼られ、お花を生けたり、個々の楽しみに興じている。職員は見守り、必要な支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間の行事計画に沿って、定期的に近隣の観光地を全員で訪れている。利用者の希望、体調に留意し、また、天候に合わせて屋外でのラジオ体操や散歩、買い物などの外出を日常的に行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設医院の駐車場に通じる門扉は、防犯上鍵かけをしているが、玄関ドアはセンサー付の自動扉であり、日中、鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成し、地域住民にも協力を呼び掛けて、年2回の避難訓練を実施している。玄関ホールには、人数分の防災頭巾がベンチの座布団として置かれている。飲料水や非常時食品、薬や避難備品はリュックサックに入れ、常備されている。緊急連絡先(網)は事務室に掲示されている。また、最近では、津波という設定で避難訓練を行った。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好と栄養バランスを考慮した食事を調理している。食事と水分の摂取量は個々に記録し、摂取状況の管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には、花やひまわりの「ちぎり絵」などが、「社会見学」でのスナップ写真集（壁新聞スタイル）が多数貼り出されていて、眺めるだけでも、微笑ましい雰囲気となる。利用者や職員による大きな「お地藏様のちぎり絵」が貼られ、利用者は拜んだり、お経を唱えたりしている。中庭に面した居間は明るく、ソファーも程よく配置され、くつろぐことができる。和室は半座位でも洗濯物たたみが出来るよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居後、穏やかに暮らせるよう、利用者の使い慣れた家具や衣類を持ち込んでもらっている。居室は、どの部屋も整理、清掃が行き届き、清潔で居心地の良い環境となっている。また、居室の入り口横には車椅子の収納スペースもあり、利便と安全に工夫されている。		